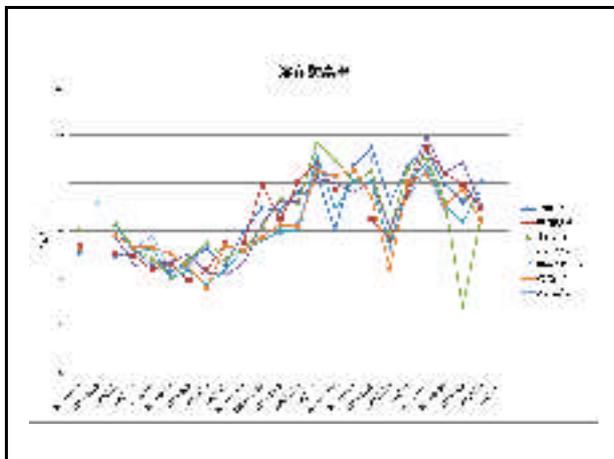
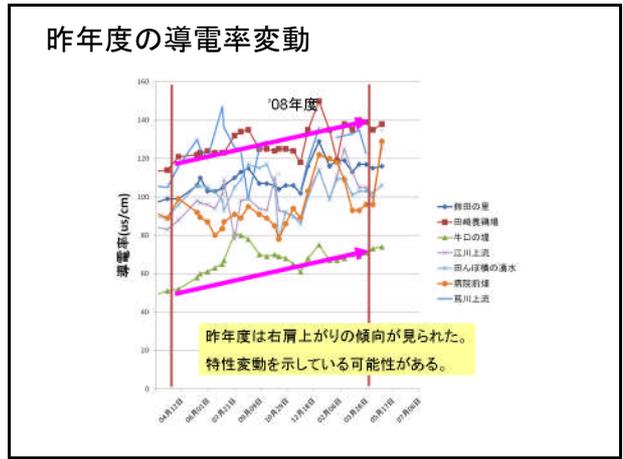
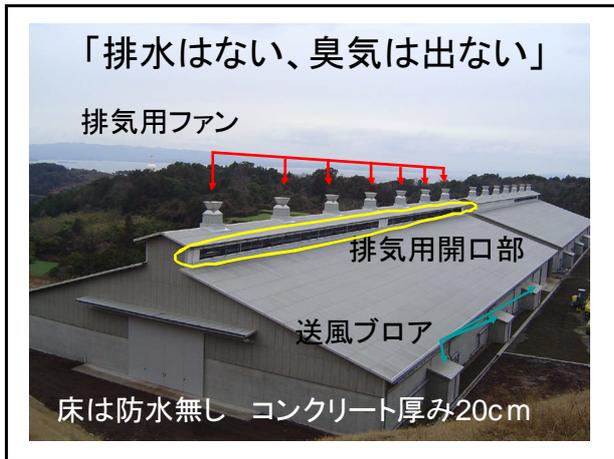


高木基金 成果発表会配付資料

グループ名 ・代表者名	三浦の自然と大村湾の環境を守る会 野田 智子	助成金額	20万円
助成のテーマ	大村市西部町江川流域の水質調査および江川河口海域の生態系の把握		

調査研究等のテーマに関する背景説明

問題の概要	西部町住民の生活・農漁業に欠かせない河川（江川）の最上流に、下水汚泥堆肥化施設（産廃施設）ができ、操業が開始された。処理能力は日量 100 トン、「廃水がない、臭気はない」との事前説明であったが、計画当初から悪臭、水汚染（井戸・地下水・河川水、海域）、大気汚染（粉塵等）などによる地域の環境汚染予測は明白なため、操業差し止めを求めて裁判中である。	
問題の原因 など	事業者は、マツダグリーンサービス（長崎市）と共和化工（東京）の 2 者。(株)山有が特許を持つ YM 菌という超高熱菌による汚泥の好気性発酵で、汚泥発酵肥料をリサイクル品として得るというもので、原料と同量以上の「製品肥料」をタネ菌として利用する。 施設は極めて簡易で、上部に排気ファンと排気窓があり、土間は防水無し厚み 20cm のコンクリート。ブローで空気を発酵ピットに送り込み、発酵により発生するガスは吸気して脱臭棟に送っているが、YM 菌による生物脱臭では効き目はなく、臭気の集まる脱臭棟が日中全開放になっている。連日、特に夜間・早朝は臭気がひどく近接の福祉施設を苦しみ、2km 離れた集落にも臭気が届いている。運搬車は汚物をこぼし、場内作業車は汚れたまま場内を行き来する。建物のすき間からは粉塵、汚水が漏れ出ており、屋外に散乱した汚物は雨水枡に集められ、未処理で江川に放流されている。焼却灰を原料申請するなどの経緯がある。	
問題の経過	平成 16 年 YM 菌施設建設計画 平成 17 年 住民陳情等 12 月施設完成 平成 18 年 2 月 2 社を提訴。裁判開始 平成 19 年 12 月 許可、操業開始 ※県の許可条件：排水 BOD20mg/l 以下、敷地境界の騒音レベル 60dB 以下、振動レベル 60dB 以下、臭気濃度 30 以下 他府県の YM 菌施設周辺の汚染状況調査 平成 20 年 操業規模は計画の 10%以下。 3 月 地裁で一審住民敗訴。 裁判長「操業してみないと汚染の事実是不明」 すぐ控訴、福岡高裁で二審始まる 4 月 高木基金助成研究開始（データ取り） 平成 21 年 4 月～事業者の搬入量が 50%に。 悪臭連日、井戸水に異変。木の立ち枯れ、場内の汚れが明確になっている。 10 月 6 日が高裁での原告側立証期限	位置関係  
争点	事業者「許可条件項目、原料汚泥、製品肥料は基準値以内である。行政の指導のとおり。」 住民「臭気がひどく生活できない。場内外ともひどく汚れ地域を汚染している。他県から大量に“タネ菌”が搬入され、粉塵となって周辺に拡散している。いずれ、河川や地下水も汚染され、農漁業、井戸の利用に影響を及ぼす」	
助成を受けた調査研究等のねらい	予測された汚染を立証するために、初期段階からの地域の自然環境のデータを集め、モニタリングを開始する。 専門家の指導を受け、集めたデータを分析し考察する。	

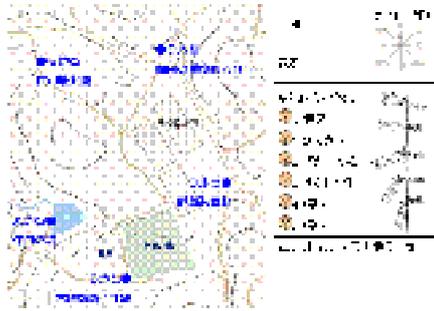


すさまじい悪臭

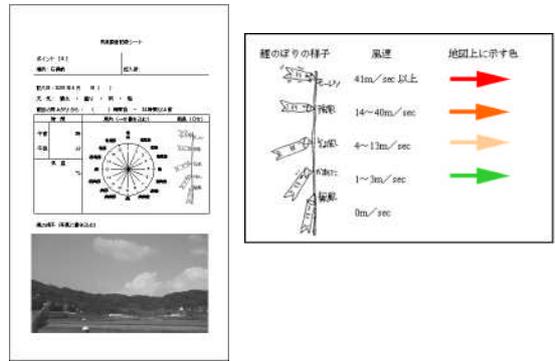
近接福祉施設「眠れない」
毎日大村市役所に通報

「発生源が特定できない」
「となりの養鶏場の鶏糞でしょう」
「臭いときは、窓を閉めてください」
「ガマンできなくなってから通報してください」

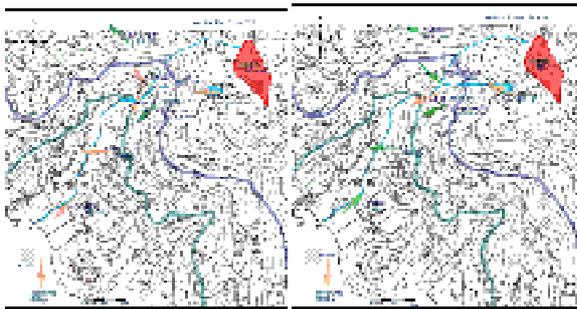
住民による悪臭モニタリング



気流調査



海風と山風で棚田に滞留



落下菌調査

佐賀大学農学部 染谷孝准教授
 土壌微生物専門
 佐賀県伊万里市「はちがめプラン」
 生ごみ堆肥化によるゴミ減量のN
 POの支援

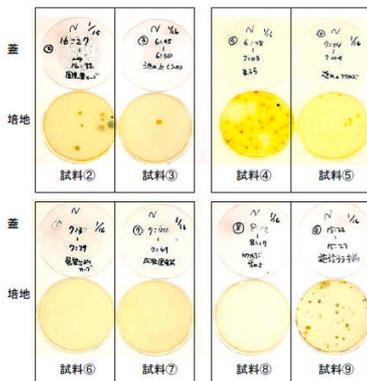


図1. 普通寒天培地上の落下菌コロニーの写真

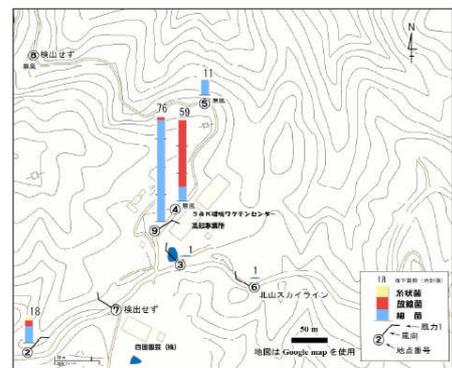


図2. 採取場所および落下菌数の地図プロット

グループ(個人)のプロフィール

連絡先など	住所・所在地	長崎県大村市西部町 335-3					
	連絡担当者	野田 智子					
	電話・FAX・携帯						
	E-mail・URL	nodatomo@post.email.ne.jp					
グループの特色	西部町住民全体の 9 割で組織。YM 菌施設の被害を受ける当事者であり、多くが農漁業など地域の自然環境に依存した生活を営む。ほとんどは裁判の原告となっている。						
これまでの活動経過・研究実績	【裁判上必要となる環境調査など】			【その他】			
	<ul style="list-style-type: none"> ・水質モニタリング調査 ・湧水グルーピング調査 ・気流調査 ・悪臭調査 ・落下菌調査 ・海域環境調査 			<ul style="list-style-type: none"> ・環境省交渉 ・長崎県交渉 ・ゴミ弁連シンポジウム事務局（平成 20 年度） 			
グループの組織基盤・財政状況	決算/事業報告	あり	なし	会員組織	あり	なし	
	会報など	あり	なし	発行サイクル	年 3 回？		
	会員・支援者数	100 名					
	年間の予算規模	公開できない					
	主な収入内訳				主な支出内訳		
主要メンバー役員など	会長 佐古 和博 社会福祉法人 ことの海会 鈴田の里学園						
協力を受けている研究者(*1)	<訴訟代理人> 梶山正三先生（駒ヶ岳法律事務所） " 高尾 徹先生（大村総合法律事務所） <専門分野> 関口鉄夫さん、望月康平さん 佐賀大学農学部 准教授 染谷孝先生（土壌微生物専門）						
協力して活動している団体など(*2)							
その他 (自己PR・協力要請等も可)	木の立ち枯れ原因を調べたく、樹皮組織の分析などできる機関を探しています。						

(記入方法) *1 グループの役員など、恒常的に助言・協力を受けられる関係にある場合は◎印をつけ、役職や関係などを付記して下さい。(過去に助言・協力を受けたことがある、あるいは、今後依頼できる、という関係の研究者は、無印で記載して下さい。)
*2 特に密接な関係にある団体には◎印を付けて下さい。(必要なときに協力を頼めるという団体は無印で記載して下さい。)

参考文献・ウェブサイトなど

- ・空中微生物による環境大気健康診断マニュアル 染谷孝
(都市化・工業化の動植物影響調査法マニュアル 1989)
- ・YM 菌関連特許 第 3986899 号 重金属の低減剤及びそれを用いる重金属の低減方法
" 第 3412024 号 ダイオキシンの低減剤及びそれを用いるダイオキシン類の低減方法